

「くに・アイデンティティ」を考える

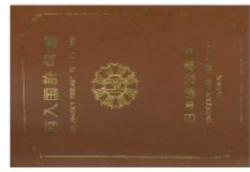
研究推進部長 丹生 憲一

6月30日(火)の2学年(丹BAL台湾)では、後藤みなみ(王 淑蘭)さんをお迎えして、講演会「台湾 日本 人生」を開催しました。後藤さんには5年前からずっと本校の台湾学習に関わっていただいています。前回まで、2年生の皆さんが自分たち視点で考えた「台湾とは何か」という問いに答えるように、当事者の立場から想いを語っていただきました。1・3年生の皆さんのために、後藤さんからいただいた資料をもとにかいつまんで紹介していきます。

後藤さんの故郷は、台湾の台南で1984年に来日されました。最初に来たところは東京で「外人」扱いです。山一証券にお勤めになり、ババハリ高こうと考えていましたが、ちょうど「男女雇用機会均等法」が施行された年で、まだまだ男女格差が大きいことを痛感されたと思います。当時は、ハビルの地頭商で、日本人と国際結婚され、自然自覚業業にあこがれていた旦那さんについて高志園に渡り、子育てされました。のちに、神戸に越えられて人権教育の講師として働かれるようになりますが、いつも「私になにじん？」という疑問に苛まれてきたそうです。下にハビポートや身分証明書を紹介しておきます。



中華民国旅券



日本国旅券



再入国許可書 国籍：中国(台)？

後藤さんは1950~80年代を台湾で過ごされました。台湾は当時、蒋介石の国民党一党支配下にあり、台湾文化・日本文化排除が進められていました。本省人・外省人・原住民族(山胞)の別があり、戒厳令(1949~1987)の下、「白色テロ」とよばれる政治的弾圧の日々。高校には警官が常駐し、軍事訓練も行われていたそうです。日本にきて初めて、それまでは知られていなかった台湾のことを知ったとおっしゃっていました。日本統治時代のこと、二二八事件など…。

現在の台湾は様変わりし、台湾初女性総統 蔡英文が2016年5月就任し、2020年現在2期目を務めています。このコロナ禍において、「TAIWAN CAN HELP」のキャッチフレーズの下、面交のある国々に積極的にマスクや消毒液を寄贈しました。…しかし、その面交ある国は、世界にわずか15か国だけというのです。新型コロナウイルスの封じこめに成功したと高評価されていますが、世界保健機関(WHO)には加入が認められていません。蔡英文総統は、若者層の政策を進め、IT起業大匠に39歳の高鳳(オードリー・タン)氏を抜擢し、開かれた政府、知識階級、多文化共生に努め、アジアで初めて同性婚を合法化したことでも知られています。そんなお話の最後には、次のような課題をいただきました。皆さんも考えてみてください。

1. あなたは祖国に守られていると思いますか
2. もし自分の国が「国」と認められなくなれば、どう思いますか
3. 国歌、国旗をどう思いますか
4. 10年後・20年後・30年後の自分へ



6月30日(火) 特別講義 高畑由起夫先生

研究推進部部長 土元 優一

関西学院大学の高畑先生を招き、特別講義を行いました。5期には、1年1組を対象に、「課題研究とは何か、リサーチをどのように進めたらよいか？」というテーマのもと、



- I. リサーチ等の構成・手順
- II. テーマの掘り下がり・深め方
- III. 多様な現象を整理、異なる意見をまとめる
- IV. レポートのまとめ方
- V. 資料や文献をどこで探すか？
- VI. 資料や文献をどこで探すか？

という内容を話をされた予定でしたが、講義後に「予定していた内容の3分の1しか聴けなかった」と言われたように、(こちらの構成が不満足もあり)すべての内容を聞くことはできませんでしたが、(残り3分の2を聞く機会は今後設定していく予定です。)しかし、短い時間の中ででしたが、講義内容はとても面白いものでした。

課題研究(リサーチ)の手法は、グローバル・スタンダードであり、一連の活動を通して、「学ぶこと」であるという話の後、特に、テーマ設定が重要であると話されました。さらには、テーマが「オリジナリティ」と「リアリティ」、そしてそれらを結びストーリー「が重要になってくる」とも。

近年、多角的に物事を見る目、議論する力、そうしようとする心構えが大切であるという声が多方面から聞こえるようになってきました。講義の中で紹介された「丹波市男女別年齢別総人口ピラミッド」のデータでは、いろんな気づきがあることを学びとができます。あなたは、このデータからどんなことを見出しますか？ またその背景には何かあるのでしょうか？

1. つのデータでも、表裏の仕方や傾向を捉えればいろいろ分析ができるように、他者と協力する中で、疑問や悩み、感動を共有し活動していくことで、解決の糸口が見つかるかもしれません。

1年1組は現在テーマ設定の真最中ですが、まさに今が重要時期。設定したテーマで基礎研究を行い、時にはテーマの再設定をしながら、しっかりと課題研究の第一歩を踏み出していただきたい。あの日、あの場所、ある少年・少女がそうしたように…。

6期には、2年1組を対象に、個別指導をいただきました。2年生も現在グループ分けとテーマ設定の真最中です。テーマは決まったものの、ストーリーをどう組み立てればよいか、問題となっていることの背景をどのように調べればよいか、アンケート調査の項目や対象や内容をどうすればよいかなど、それぞれ抱えている悩みや疑問に対してアドバイスをいただく時間となりました。後日、高畑先生から素敵なプレゼントもいただきました。皆さんの手に届くまでお待ちください。

7月1日(水) 丹BAL1

1年生2~6組では、先週引き続き、自分たちの取り組むテーマについて話し合いが進められました。今回は「マンダラート」という手法を使ってテーマを深化させるべく、活発な議論が進んだようでした。今回出されたテーマをもとに、7月15日の特別授業に向けて、グループ分けを進めていきます。



How do you show whom what?

研究推進部 丹生 憲一

9月23日(水)の丹 BAL.1は小川教育研究会の小川高平先生に「伝わる『動機力』」と題して、1組ではポスターセッション、2～6組は動画・PRポスターを作る際の基本的な考えや、作り方についてお話しいただきました。

「動機の本質」は、「何のために動機しようとするのか」「目的を忘れない」ことが大切で、パワーポイントを用いたプレゼンで、アニメーションだけに頼りすぎたり、テレビコマercialでも、ストーリーに寄りすぎた結果、何のCMかわからなかったり…「基本」でありながら「目的を忘れない」のは難しいことです。

「動機、何で、どのように」伝えるか考えることも大切です。動機の対象が何ばかりやると動機を忘れない。「丹波市に住む16歳の高校生で、国立大を目指す。理系の進路は51種類の男子生徒対象」…と取り込んでいくと、それに該当しない人を含めて「誰の先のように心に刺さる」のたとおっしゃいました。誰か一人を思い浮かべて、動機方法を考えましょう。

研究を進めて色んなことを知る。あれもこれも伝えるものですが、情報を絞って「何を伝えたいか」を考えることが大切。ポスターセッション・動画・PRポスターに共通事項として、「作り方」については「内容」「見た目」のバランスを強調されていました。

1. 紹介文のポスターセッションでは、「タイトル」「見出し」「詳細」「主張」「理由・具体例」「結論」の部が揃っていること、一語で目を引く「見出し(レイアウト・色使い)」が大切だとおっしゃいました。具体的に言うと、他の情報がわかるように区分けしたり、数字を揃えたりする。最大3色までにして、見出しの色は統一する。写真、グラフ、絵を効果的に用いる。文字の大きさは、タイトルは5m、見出しは3m、詳細は1m離れても見える大きさにしておく。字はゴシック。…具体的に、わかりやすいアドバイスでした。

2～6組には、どの手段を用いるにしても、「とにかく作ってみる」そこから、制作→修正を繰り返すのだということを知りました。最後に「動画を制作する前には、絵コンテを作成する」「ポスターを作る前には、しっかりレイアウトを決める」ということが付け加えられています。美濃に他の学校で作られたポスターや、動画が作った作品を例に挙げて、原案と比べる良い点や改善点の解説もしていただきました。

聴いていて、動機、動機に立っている人も「動機」する動機一人として、考えさせられることが多くありました。「この授業の目的は何か?」「誰を対象にこの動機を立ててるのか?」「どのように、授業を展開するのか?」…そんな疑問を、常に聞き取っていくことが大切だと感じています。…「3回つづけたが、アタックし続けて続けた」というエピソードや、RADWIMPSの子供、初日と最終日が当たったのに、コロナの影響で行けなかった」という強みが印象的過ぎて、好奇心を掻き立てるような心配ですが…。

東海は「丹波の魅力のおすそ分け」第二弾、1組の人たちは中間発表をしてももらいます。2～6組の人たちは、先生方と相談して、いいよ準備に向けて動き出します。このタイミングで発表をしていただくのは、先生

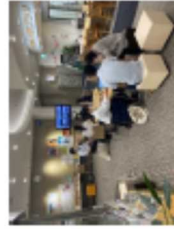


どのようにお話しする? 動機
do you show whom what?

探究Ⅱ 丹波市市国ブラザへの訪問

2年1組 河内 松山 典貴

高齢者について研究する生徒が、高齢者の方たちがどのような活動をしているかの情報を集めるために、市役所市民活動課の職員さんとコンタクトを取りました。職員さんと市国ブラザから説明していただくことになり、8月21日(ゆめタウン)内にある市国ブラザを訪問させていただきました。職員さんからは、行成の市民活動課が市民のどのような部分にかかわっているかの説明を受け、必要なデータを提供していただきました。市国ブラザからは、社会福祉協議会が行っている「くらしの相談センター」の案内をいただき、ちょうどその日が探訪の授業の日だったので、参加することにしました。くらしの相談センターでは、高齢の方が生活を続けるために、情報の提供や買い物、日常生活を支援する活動がされています。この福祉課では、高齢者が生活を続けるために、情報の提供や買い物、日常生活のために使っておられることが分かりました。市国ブラザでは、このようにおられることに対して市国の方の相談に乗ってくださる体制ができており、探訪活動の中でも驚きたい情報、調べたい事柄の調べ方、最後になって驚かすだけでなく、また探訪活動の目的の発表の機会も、市国ブラザでつくることが可能であることを体験いただきました。探訪活動の中からお出てきた課題を聞いてみたいという方や、高校生のアイデアを必要としている、または高校生に力を借りたいという方とついでにいただくことで、予定より深いものになり、市国の方にも喜んでもらえることになりました。



丹 BAL 台湾

9月24日(木)の午前中に、台湾・桃園にある治平高級中学校(高校)の林(リン)先生とオンライン交流について、2000名集まりました。治平高校の生徒数は900人、外国語として日本語と英語を教えられているそうです。今回の交流では、治平の生徒たちに、日本語で(1)台北、桃園について、台湾のグルメや学校紹介をしてもらいます。台湾について紹介してもらおうと思っています。今回は「日本語」のやりとりです。

11月には台湾第一高校甲午とオンライン交流を計画しています。こちらは、隣の国のことを紹介する動画を「英語」で作成し、台湾の高校生に見てもらいます。台湾の高校生が作った紹介動画を見て、お互いにその動画について話し合えればと考えています。両方とも初めてのことですが、詳細は決定ですが、校内のネット環境も整えてもらっています。留学旅行に行かなくても、有難い交流ができるように準備を進めていきます。

You Tubeを観るのが好きな人は、「台湾留学旅行アカデミー by SNET 台湾」の動画を観てください。現在、第1回「台湾とは何か?」～第5回「台湾の経済」までそろっています。一冊が、30分程度で、現役高校生がオンラインで専門家の先生から授業を聞くという形式です。「台湾とは何か?」のおさらいにも最適です。…または、「治平通信」と検索すると「魅力治平」など、治平高校で盛り上げられる面白いパフォーマンスが見られますよ。

おすそ分け

12月2日(水)「丹波の魅力をおすそ分け」の第3弾を開催しました。今回は各講座に力を入れている発表会です。
1.4の講座にかかれて、一講座2〜4期がポスター、スライドを用いてプレゼンテーションを行いました。機材の調子が悪くて開始が遅れたところもありましたが、概ね問題なく終わりました。発表の後は、聴いている生徒の皆さんからの質問あり、講師の先生方からの賞賛、即席ありでよい時間が過ごせたのではないしょうか。

終了後、講師の先生方にお話を伺い、次のような指摘・助言をいただきました。

「聴くごとの運動の前に、振り下げかたや脚への負担を学んだほうがいいですね。」

「インターネットの前で終わりでなく、せめて電卓教材でもすれば生の情報になります。」

「脚への負担に慣れて、『なぜ』という問いを大切にしてください。」

「理論的に考えられるようになればいいですね。」

「イベントを開催するという話でも、『誰に向けて』を考えてほしいと思います。」

「的確の立て方が甘いところがあります。ネットでも、脚への負担を減らすことを踏まえて、運動で問を立てているのが残念です。問を立てて、考えが、調べ方、調べ方については、ほぼ全員の講師の先生が指摘されています。わかりやすい側では、『丹波の産品は知られていないから、多くの人に知ってほしい』という期があり、『どこで、知られていないの?』『調べてみたの?』と聞く、調べていない、『丹波に面白い人たちがいないのは嫌くないから?』というので、『本当に嫌くないの?』と聞く、『調べていない』のだそうです。『なんとなく、そんな感じがする』ではなく、『知られていないのか?』という疑問が投げば、実際に調べてみましょう。しかし、『たと、八王子(半)発表までできていたよ。』『前回は、この授業の目的もわからずやっていたという生徒もいたよ。』『その前は○○さんに聞くといいよ』とアドバイスすると、授業が終わるやいなや質問に飛んで行った人がいたよ。』『小学校で調べたことを、高校生になった今、調べてみると、感じ方・考え方が違うのだから驚かしてあげた人がいた、という話がありました。』

この発表会で、各講師の発表が測られています。この人たちは12月22日(火)に学年発表会で再び発表してもらおうことになっています。試験明けに準備する必要があるとして、さらに良い発表に仕上げてください。

<発表者のみなさん>

講師の先生	代表班
一宮 祐輔	4組5班
出町 肇	3組7班
小橋 昭彦	6組3班
中川 ミミ	5組6班
マイク・トイ	2組2班
和田 輝政	6組8班
白川 やすよ	6組5班
イラズムス 千穂	2組7班
合水 鼓	5組5班
柳川 拓三	4組8班
宮川 五十雄	2組3班
小川隆平・岡野文	2組4班
渡台 佳彦	4組2班
田中 公毅	6組4班



あらためて、「肌ざわり」について

前々号にも書いたのですが、先月29日(日)、我々探検Ⅱ「機織班」は機織に行ってきました。プロジェクト保障川の主催による「川から考えるみんもの未来」というシンポジウム、非常に刺激的で、とても充実した時間を過ごすことができました！

会の様子についてはYouTubeまで動画撮影までそれぞれに際して、私は別の視点からつつ、書いていきたいと思います。

今、1年生の国語総合A(現代文)で森田正博という哲学者の「無個性化する社会のゆくえ」という文章を読んでいます。中に「文明の進化とは無個性化を進めることではないのか」という表現があるのですが、なるほど、我々は例えば究極の高層であるところの「死」や「死の恐怖」を過ぎ、リアルとバーチャルの差もほとんど意識できなくなりつつあります。

でも、私たちに、例えば、「死」が来る、ちゃんと、個別に、だから、私たちに、死とは、「死」とか、「生」とか、そんなことを正面切って考えることはきつと本事にははずねのです。あ、ちなみに、1年生の国語総合A、「無個性化する…」の前に読んでいたのは志賀重昂の「地の魂にて」でした。「死」や「生」に正面から対峙した小説です。

「文明の進化とは無個性化を…」と森田氏は言うわけですが、そこを「担当」するのが、文学であり、芸術であり、宗教であるのだらうと想うのです。そして、ひよつとすると「探検」もそこに。

これまで何度か、ここに、自分の肌で「探検」することについて、書いてきました。そして、今の時代において、それが徐々に難しくなりつつあることについて。

「探検の原動力は何ですか?」と問われた mymizu のマクティア・マリコさんは、仰いました。「私は自然が好き。だから、キレイな砂浜にブラブラと散歩するのを楽しみます。将来は子どもも遊びたい。そして、子どもたちにキレイな自然を残したい。だから活動を始めました。」と、ゼロ・ウェイスト・ジャパンの原動力も同じようなことを仰います。

その日、私たちは準備は保津川下り(保津川運動企業組合)の理事長、黒田知入さんのお話を伺いました。あまりのコミの多さから20年前に社員ふたりでゴミ拾いを始められ、それがNPOの立ち上げ、内務省で初めてとなる海ごみミットの開催、亀岡市の「プラごみゼロ宣言」に結び付いたというお話を、私たちは感動を以て聞きました。[20年前にゴミを拾い始めたときには、自分たちの活動がこんなことに繋がるとは思ってもいなかった。今の皆さんの気持ちや行動が、20年後には今は思いつけないような活動に繋がるとも思えない』というお言葉にも、とても勇気づけられました。

そして、やはり、私が思うのは、マリコさんと同様、大卒のみなさんには、問題意識、身体感、「肌ざわり(肌ざわり)」だといふこと。文明は私たちが「無個性」してしまいますが、いやいや、私たちは自分の「個性」にちゃんと向き合わなくちゃいけない。そんなことを感じた一日でした(が、一緒に参加した生徒諸君はどうだったのだろうか?)。

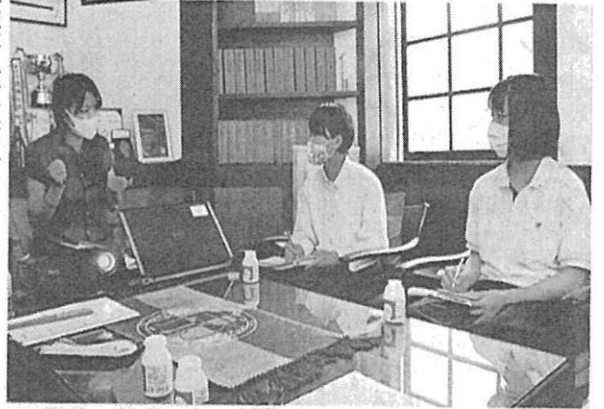
もうひとつ書いたかったのはシンポジウムの会場で彫られたアンケートのことなのですが、ああ、紙幅が足りてしまいました。これについては、また。



* 「K☆ing」は本校ホームページからもご覧になれます。

柏原高生 商品開発学ぶ

西山酒造場 社員からこつなど



研究を進めるべく、話を聞いてメモを取る柏原高校の生徒ら＝西山酒造場

丹波市

柏原高校（丹波市柏原町東奥）の2年生4人がこのほど、授業で行っている研究について知識を深めるため西山酒造場（同市市島町中竹田）を訪問した。同社では社員の土師茜さんが、甘酒ヨーグルトが開発されたいきさつなどを話した。

同校の「知の探究コース」の生徒らは、興味がある内容をグループごとに研究している。今回同社を訪ねた4人は、丹波市産の食材を使って健康に良い食品を作り、丹波市のPRにつなげることをテーマにしている

という。

土師さんはスライドを使い、甘酒ヨーグルトの発想が生まれたきっかけや、工夫を重ねつつ新製品として完成するまでの歩みなどを解説。生徒らは土師さんに「どの季節が一番売れていますか」といった販売に関することや、商品開発を進めるためのこつなどについて質問し、熱心にメモを取った。

参加者の一人、足立仁 and 花さん(16)は「甘酒ヨーグルトが試作を重ねてできたことが分かった」と話していた。

（川村岳也）

2020年（令和2年）9月11日（金）
神戸新聞

2020年（令和2年）
11月22日（日）
丹波新聞

台湾の生徒とリモートで交流する柏原高校の2年生
＝柏原町東奥で



リモートで結び
台湾学生と交流

柏原高

柏原高校の2年生21組の生徒が17日、同校で台湾の高校（台南第一高級中学校）の生徒たちとリモートで交流した。30班に分かれ、パソコン画面を通して互いに顔を合わせながら英語で会話を楽しんだ。両校の生徒それぞれが

事前に作成した、国や母校を紹介した動画を見せたほか、「K-POPは好き？」「ニンテンドースイッチ（携帯ゲーム機）は持っている？」など学生らしい話題や、趣味の話などで盛り上がった。

細見ここのさん（市島中出身）と片山桃花さん（永土中出身）は、「台湾の生徒は英語が流ちょうで、態度も堂々としていた。語学力の差を見せつけられた」と苦笑いし、「良い刺激をもらった。今度交流するときは、しっかりと英語を勉強して臨みたい」と話していた。

柏原高2年生の修学旅行先は、7年前から台湾。今年は新型コロナウイルスの影響で渡航を止めたため、「交流が途切れないように」とリモート交流を企画した。

この行事に合わせ、台南第一のPTAらが、柏原高にマスク2000枚を贈った。

菓子を話題に日韓交流 柏原高と現地の高校 ネットで



インターネットを通じて韓国の高校生と交流する生徒たち＝柏原高校

柏原高校（丹波市柏原町東奥）の生徒らが、韓国の高校生とインターネットを通じて国際交流を行っている。昨年12月には、生徒らが韓国の高校生に日本の菓子を食べてもらって感想を聞き、味覚の観点から両国の文化の違いについて学びを深めた。

外国語高校に生徒を派遣したり、韓国から修学旅行生を受け入れたりしていた。しかし、今回は新型コロナウイルスの感染拡大を受けて中止に。そのため、ビデオ会議アプリ「Zoom（ズーム）」を使った交流を始めたという。

今回はあらかじめ、柏原高校のインターアクト部で

選んだ日本の菓子ベスト10を韓国へ発送。いずれもスパーなどでおなじみの商品で、金海外国語高校の日本文化研究部で順位を付けてもらい、その結果を発表し合った。

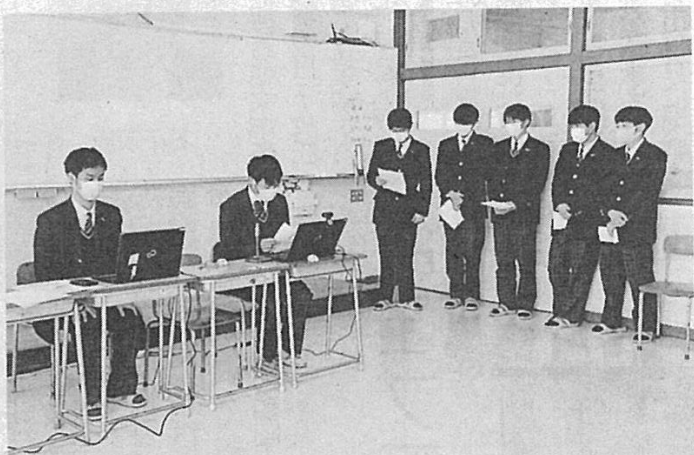
柏原高校の生徒らは、韓国の学生から順位とともに「おいしかった」「ちょっと苦手だった」といった感想を聞かされた。「おおー」「なるほど」などと声を上げていた。

インターアクト部の芦田光咲季部長（17）は「コロナでいろんな人と関わるのが難しい中、外国の方と関わるのが楽しかった」と笑顔だった。

（川村岳也）

2021年（令和3年）
1月15日（金）
神戸新聞

研究成果 オンライン発表 柏原高生、町おこしなど題材に



オンラインでの発表を行う生徒ら＝柏原高校

柏原高校（丹波市柏原町東奥）の生徒らが、授業などで行ってきた研究成果を発表する催し「地域課題から世界を考える日」がこのほど、同校で開催された。生徒らの発表はビデオ会議アプリ「Zoom（ズーム）」を通じて中継され、地域住民や他校の教職員らが見守

った。催しは毎年開催されているが、昨年は新型コロナウイルスの感染拡大を受けて中止に。今年は丹波の森公苑で開催予定だったが、緊急事態宣言の発令を受けてオンライン開催に切り替えた。

1年生は、大河ドラマ「麒麟

がくる」を使った町おこしや丹波の工芸品、丹波栗、川裾祭りをテーマに発表。また、2年生もフェアトレードやオンライン授業、台湾について学んだことなどを題材として発表を行った。

発表者の一人、知の探究コース2年の山鳥太一さん（17）は「学べるところがあってよかった。僕らなりに考えて、形として残せて満足」と振り返っていた。

（川村岳也）

2021年（令和3年）
2月2日（火）
神戸新聞

地域課題など研究成果発表

1・2年生

県立柏原高校（丹波市柏原町）の1、2年生が、地域課題や国際交流などを研究した成果を発表する催しが、このほど開かれた。

同校には「知の探究コース」があり、探究活動として生徒が様々なテーマを研究している。同校は文部科学省の「地域との協働による高校教育改革推進事業」のグローバル型に指定されており、丹波市と連携し、住民に学びながら地域課題について研究している。催しは当初校外の会場で開く予定だったが、コロナ

オンラインで研究成果を発表する生徒
丹波市柏原町東奥



禍のためウェブ会議システム「Zoom」での発表となった。文科省の担当者、福井県や静岡県の高校なども視聴。生徒たちは「丹波栗の魅力を探ろう」「フェアトレード商品の購入量を上げるための一方策」などについての研究成果を、次々と披露した。

また丹波市各地の川辺などで開かれる「川裾祭」を扱った発表では、祭りの内容や住民の祭りへの思いなどが紹介され、祭りをより知ってもらうためホームページ開設案が示された。

（前田智）

2021年（令和3年）2月2日（火）
朝日新聞

障がい者の自己肯定感を研究

柏原高・西田添恵実さん



ロジカルデザイン賞の受賞報告の際、来古里の利用者と撮った集合写真（前列左から2人目が西田さん、右隣が西垣さん）＝市島町上牧で（提供）

「ロジカルデザイン賞」に

甲南大学 フェスタで 市内施設で「要因」調査

柏原高校「知の探究コース」2年の西田添恵実さん（市島中出身）が、パン製造に携わる障がいのある男性が自己肯定感を獲得していく成長の軌跡をまとめ、このほどオンラインで行われた「甲南大学リサーチフェスタ」で発表した資料が、優れた構成、配置、色使いで作成されたとしてロジカルデザイン賞を受賞した。タイトルは「障がい者の自己肯定感を促す環境づくり・障がい者能力の自己開発能力についてのエスノグラフィ研究」。地域の障がい者施設で昨年9月から研究したことを、表や写真を多用して発表した。（大治庄三）

障がい者と健常者の信性に着目した。頼関係に興味を持っていた西田さんは、障害者就労継続支援B型施設「ら・ばん工房 来古里」（市島町上牧）を運営する高見忠寿さん・真生さん夫婦を訪ねた。そこで、はつらつと働く利用者で発達障がいのある西垣祥平さん（33）の、5年前の入所当初から現在までの写真を見せてもらい、年を追うごとに西垣さんの表情が豊かになっていく様子を自にした。

高見夫妻の「障がい者の自己肯定感を促すサポートを心掛けている」との言葉に西田さんは、西垣さんと高見夫妻との関係性を着目した。来古里が他施設と比べて送迎や工賃などの待遇面で突出しているわけではないのに、西垣さんが楽しく働けているのは、「施設の物理的要因ではない別の要因がある」と考え、対象者をインタビューやフィールドワークを用いて観察し、データを集めて要因を探る「エスノグラフィ」という方法で調べることになった。

一方、28歳で入所後は幸せ度が8〜10にアップし、他人との関わりが増え、記述量も飛躍的に増えた。写真の表情やしぐさを読み取ってみると、幸せ度が高まってくにつれ、口を真一文字に結んでいた笑顔が、歯を見せた柔和な笑顔に変化し、ぎこちないピースサインも自然な形になっていくことが分かった。西田さんは、高見夫妻は、利用者の長所を生かした利用者中心の職場づくりに努め、西垣さんに学び合える関係性を理解して良き話し相手となっている。西垣さんも人を信頼しており、施設が疑似家族的存在になっている」とし、「人権の普遍的価値へのアプローチだった。健常者も障がい者も互いに学び合える関係性なのに、区別するのはおかしい」と改め、認識したと結んでいる。

2021年（令和3年）2月4日（木）
丹波新聞

TAMBA Mirai Project 丹波から TAMBA へ
地域との協働による高等学校教育改革推進事業(グローバル型)
2020年度(令和2年度)活動報告集

発行日 令和3年3月31日

発行者 兵庫県立柏原高等学校

〒669-3302 兵庫県丹波市柏原町東奥50

TEL 0795-72-1166 FAX 0795-72-1168